

# 国語（古典B）×英語 学習指導案

日 時 令和元年11月13日（水）第6校時

場 所 2年6組教室

対 象 福井県立武生高等学校 普通科 2年6組

指導者 教諭 水嶋 勝彦 橋本 洋平

## 1 単元名

源氏物語 桐壺 光源氏の誕生 （大修館書店） ～漢文を英語流に読む～

## 2 単元設定の理由

### （1）教材観

2年生のこの時期における古文教材の定番である源氏物語であるが、その中に出てくる副助詞「さへ」の説明は力点を置く語句である。今回は「さへ」を導入として同様の言い回しができる漢文の累加、さらには英語の構文(not only, but also)にまで発展させ、漢文構造の理解につながっている。

### （2）生徒観

男子12名、女子22名、普通科文系クラスであり、授業中は静かで落ち着いているが、教師の問いかけに対して積極的に考え発言する雰囲気を持っていて、グループ学習の際は活発に発言できる生徒が多い。しかしながら全体的に古典分野（古・漢文とも）や英語の基礎的知識が少々欠けているため、底上げが必要である。

### （3）指導観

漢文と英語は構造的に似通っている。今回は累加と使役を例に出して、現代語訳(和訳)を間にはさむことによって似通った構造を生徒たちに理解させ、少しでも生徒の漢文に対する苦手意識を解消できないかと考える。

## 3 本時の指導目標

- ・「さへ」（古文）累加（漢文・英語）の共通点・相違点を理解させる。
- ・漢文の「使役」を英語で理解させ、他の表現（句法）について考えさせる。
- ・漢文、英語ともに書き下し文や日本語訳に捉われることなく、頭から順に訳し下していく意識を持つことで、素早く意味を取れることを理解させる。

## 4 本時の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	知識・理解
漢文と英語の構造に興味を持ち、グループ内で相談しながら積極的に考えようとする。	現代語訳(和訳)や英訳をとおして漢文と英語の共通点、相違点を理解する。	漢文の句法、英語の構文を正確に理解している。

5 本時の展開

段階	学習活動とその内容	指導上の留意点	評価
導入 5分 [国語]	<b>前時の確認</b> 「さへ」を含む一文の確認。	・語を補足して正確に意味をとる。	
展開① 12分 [国語] [英語]	<b>1 古文における「さへ」と漢文の累加、英語の「not only ~but also」の共通点・相違点について考える。</b>	・古文の現代語訳に対する漢文と英訳を書いて説明する。 ・三つの文を並べて、それぞれの特徴を考えさせる。	【関心・意欲・態度】 【思考・判断・表現】
展開② 8分 [国語] [英語]	<b>2 その他の構文(句法)について漢文と英語の文の構造を比較する。</b>  ・漢文の例文を現代語訳して、それを英訳して比較する。	・漢文の例文を提示する。  ・構造が同じことを理解させる。	【関心・意欲・態度】 【思考・判断・表現】
展開③ 20分 [国語] [英語]	<b>3 1.2 以外で漢文と英語の構造が一致しているものを見つける。</b>  ・各グループ、漢文の白文、それに対応する英文を用紙1枚にまとめる。 ・黒板に貼り付け、各グループで解説をする。	グループで行う。	グループ活動観察 【関心・意欲・態度】 【知識・理解】
まとめ 5分	本時の学習内容と漢文は英語流に読むと読みやすくなることを確認する。		

本時の深い学び

6 反省

7 ご高評